

- ScholarOne Manuscripts™ v4.17バージョンアップ内容のご紹介
- 海外セミナー参加レポート COPE (出版倫理委員会)・ISMTE (国際マネージング/テクニカル・エディター学会)
- 第2回 大学医学会雑誌情報交換会 開催レポート

使いやすさを追求し、ScholarOne Manuscripts™がバージョンアップしました v4.17

ScholarOne Manuscripts™ v4.17へのバージョンアップが9月に実施されました。今回のバージョンアップでは、大きな目玉として、使いやすさをより向上させるために大幅に改善された投稿画面インターフェースのほか、査読者の外部検索機能の実装、SFTPサーバーへのデータExport、Web Serviceの機能向上が行われました。

投稿画面の大幅なインターフェース改善

インターフェースデザインの大幅な変更に加え、必須項目の表示がこれまでの「req」から「*」へ変更されたり、題名やカバーレターなど文字数制限が設定されているフィールドでは文字数カウントが表示されるなど細部に様々な変更が加わりました。投稿画面のステップごとに詳細をご紹介します。

Step 1 Type, Title, & Abstract (論文種別、題名、要旨)

・Submission Group (論文種別によって設問内容やキーワード、要旨の文字数などを使い分ける機能)を使用しているサイトでは、新規投稿の最初の操作でManuscript Type (論文種別)の入力欄のみが表示されます。Manuscript Typeを選択することにより、各種別ごとに設定された入力欄が表示されますので、作業途中で設問の回答内容が消えてしまうなどのトラブルを防げるようになりました。

Step 2 Attributes (キーワードなど)

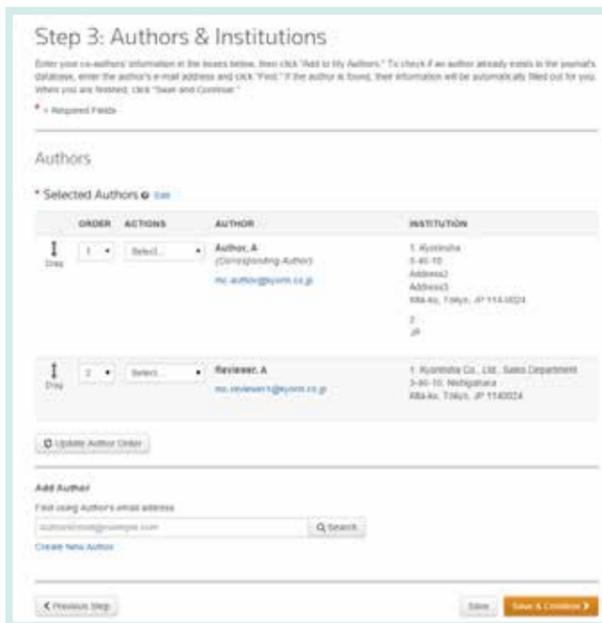
・カテゴリやキーワードなどをリストから選択する設定の場合は、テキスト欄に1文字以上入力するだけで自動的に候補の値が表示され、入力の手間が軽減されます。また、「Show Full List」を押すことで、これまで通りリストで表示することもできます。



AttributesステップのType-Ahead Search機能

Step 3 Authors & Institutions (共著者)

・共著者を登録する際は、最初にEメールアドレスの検索フィールドのみが表示されます。投稿者によりユーザーアカウントの存在が確認されることで、重複のユーザーアカウントが作成されてしまう可能性が低くなります。新規に共著者のユーザーアカウントを作成する場合は「Create New Author」リンクから行えます。
・著者リストでは、共著者の順番をドラッグで簡単に並び替えられるようになり、著者情報を編集する場合はACTIONSのプルダウンメニューを選択することで簡単に行えるようになりました。



Authors & Institutionsステップ画面

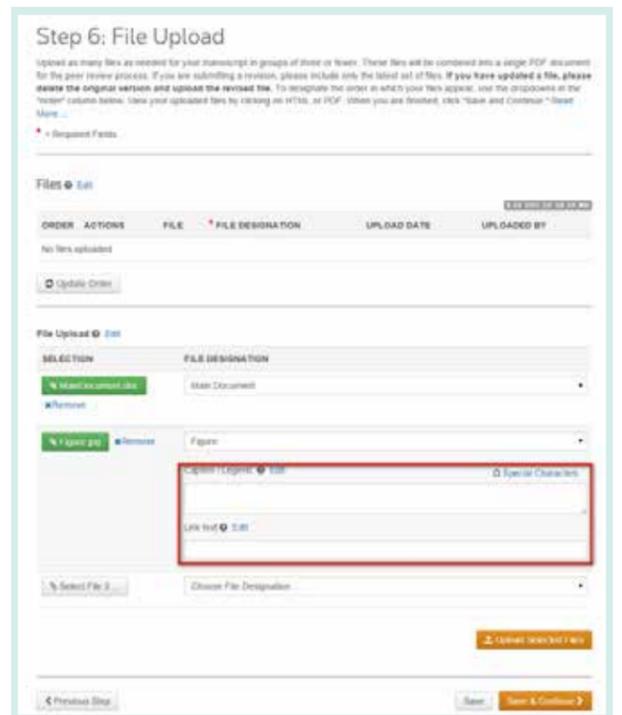
Step 5 Details & Comments (設問など)

・Cover Letter欄へのファイル添付は仕様変更となり、1ファイルのみ可能となりました。
※複数のファイルをCover Letter欄へアップロードして

いたサイトでは、File Upload欄で論文ファイル等と一緒にアップロードするなど、ルール変更およびサイト設定の変更が必要です。該当される学協会様はS1サポートセンターまでご相談ください。

Step 6 File Upload

・これまでポップアップ画面で行っていた図表ファイルのキャプションやHTMLリンクへの入力が、通常の画面で行えるようになりました。
・また、一度ファイルを選択してしまうとアップロードするまでファイルの削除や画面移動ができなかった問題が解消されました。ファイル選択後もファイル名右の「Remove」を選択することで削除可能です。



File Uploadステップのキャプション、HTMLリンク入力欄

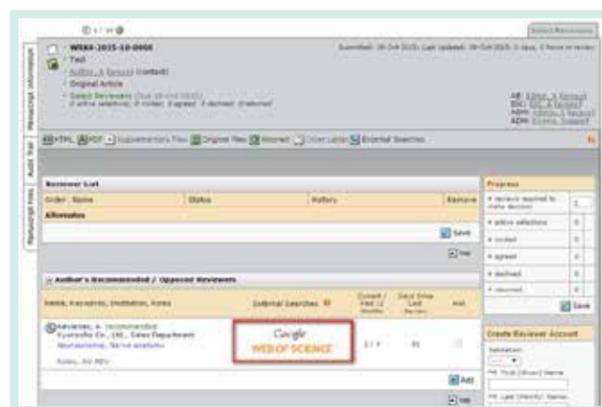
SFTPサーバーへのデータExport

これまで、データExport処理では、EメールとFTPサーバーへの転送が可能でしたが、よりセキュリティを向上させるため、これらに加えてSFTPサーバーへの転送も可能となりました。

Web Serviceの機能向上

外部システムとの連携が可能になり、これまでORCIDとの連携やReviewer Locator (Web of Scienceのデータから査読候補者を自動的にリストアップし、S1M上に表示させる機能)の実装が行われてきましたが、今後Copyright Clearance Center (CCC) が提供するRightsLinkの投稿・掲載料徴収機能との連携も予定されています。Web Serviceが加わったことで、今後も大々的な外部システムと

の連携を行い、それらをオプション機能として実装できる可能性が期待できます。



査読者の外部検索機能

これまで論文の著者や書誌情報のみがWeb of ScienceやPubMed、Googleなどの外部データベースでの検索が可能でしたが、著者が投稿画面で入力した「希望する/しない査読者」の情報もこれらの外部システム上で検索できるようになりました。さらに、査読者の情報を必ず確認頂くために検索することを必須とすることもできます。

バージョンアップは、ユーザーの皆様からのご意見、ご要望に耳を傾け、より快適な環境でシステムをご利用頂くことを目的とし、毎年複数回実施されています。今後も実施された際は詳細をご案内させていただきますのでご期待ください！

開催間近!

SCHOLARONE
MANUSCRIPTS™
ユーザーカンファレンス

2015
12/9 (水)
秋葉原コンベンションホール
〒101-0021 東京都千代田区外神田1丁目18-13

回を重ねるごとにパワーアップし、大変ご好評頂いているS1Mユーザーカンファレンス。今年は12月9日(水)にお馴染みの秋葉原コンベンションホールにて開催いたします。恒例のバージョンアップ情報や将来的な予定、ユーザープレゼンテーションの他にもジャーナルの編集、運営に関わる皆様に役立つ情報をご提供するために、様々なプログラムをご用意しています。参加者全員に「参考になった」「参加して良かった」と思ってもらえるカンファレンスを目指して鋭意準備中ですので楽しみに! またカンファレンスの終了後には意見交換会を開催します。普段はなかなかお会いしない他学会の方と交流する貴重な機会です。皆様のご参加をお待ちしています!



アメリカのメリーランド州ボルチモアで開催されたCOPE (出版倫理委員会)のセミナー(8月19日)と、ISMTE (国際マネージング/テクニカル・エディター学会)のカンファレンス(8月20・21日)に参加しました。

COPEのセミナーでは、ジャーナルのインパクトを示す指標がメインの話題でした。ジャーナル全体のインパクトを示す指標と言えばThomson ReutersのImpact Factorが有名ですが、今回はこれに加えて、論文ひとつひとつの影響度に特化したAltmetricsが注目されているとの発表がありました。これらの指標はImpact Factorのように他論文における被引用回数だけではなく各種SNS (Twitter や Facebook)などで、何回話題になった

か、リツイートされたか等をベースに算出されるので、学术界における1つの研究結果のインパクトがより明確に測れるとのことでした。

レクチャーだけではなく、ワークショップも行われました。参加者が4つのグループに分かれて、実際に起こった不正について意見を交換しました。COPEは不正が生じた際の対応の流れを示したフローチャートを公表していますが、このワークショップでは、1つの事例が渡され、それぞれのグループで対応方法のフローチャートを作成しました。

作成したフローチャートはCOPEの運営委員会によって審査され、相応しいと判断されたものはCOPEの正式なフローチャートとして採用されるとの

ことです。まだ時間はかかりそうですが、どのような結果になるか楽しみです。

ISMTEでは、2014年に杏林舎とThomson Reutersが日本で行ったScholarOne User Conferenceにおいてポスターで発表したPredatory Publisher (研究者を対象とした悪徳出版社)、およびPredatory Author Service (研究者を対象とした悪徳著者向けサービス)に関する基調講演が注目を浴びていました。Predatory Publisherは増え続けており、とくにアジア圏の著者がターゲットになりやすいとのことです。また、Predatory Author Serviceは、論文執筆サービスや英文校正会社を装って、論文の内容を盗用し、他の研究者にその内容を販売するという驚くべき内容が発表されました。

Predatory Publisher と Predatory Author Serviceという言葉の生みの親であるJeffrey Beall氏に会場で直接うかがったところ、Predatory Publisherは最近まで日本にも2社存在していたとのことでした。Beall氏のHPにおいて、その一覧が公開されています。

その他には、投稿規定をより理解しやすくするための試みや査読に関するE-mail配信等を自動化する事によって小人数の編集事務局の効率が向上したケースの発表、SNSを活用したジャーナルのプロモーション等、日々の編集事務業務に関する発表が多くなされました。今回得た知識や情報は、お客様に役立てて頂ける様に、今後、様々な活動を通して共有させていただきます。



昨年2月に大学医学会のジャーナル制作ご担当者様にお集まり頂いて開催した第1回に続き、日本医科大学医学部様、東京女子医科大学医学部様、東邦大学医学部様のジャーナル編集に携わる先生方をお招きし、東邦大学大森キャンパスにて「都内3大学医学会雑誌情報交換会」を10月6日に開催いたしました。

冒頭は東邦大学医学部様に今年3月に創刊した欧文誌「Toho Journal of Medicine」の展望についてお話し

頂きました。創刊から知名度の向上、投稿数の増加、そして雑誌の質の向上までの流れをそれぞれのフェーズに分け、フェーズ毎に、PubMedへの掲載やインパクトファクターの取得といった目標を掲げて製作・発行しているとのことでした。

既にインパクトファクターを取得されている日本医科大学医学部様の事例も絡め、目的となる「ジャーナルの質の向上」に主眼を置き、その手段としてのインパクトファクター取得について意見交換がなされました。

その後は座談会形式の質疑応答とな

りました。

また、論文の専門分野によっては、著者や共著者を除くと学内では査読者の選出が難しい場合があるという問題を各校が共通して持っていることが取り上げられ、今後各校間での査読協力ができないかといった新しい試みについても議論されました。

参加者の皆さまからは「このような意見交換は、査読フローの改善やジャーナルの質の向上につながるため

今後も続けてほしい」との嬉しいお言葉を頂き、会は盛会裏に終了しました。

今後もこうした情報交換会は、継続的な開催を予定しております。ご興味をお持ちの方は、お気軽にinfo@kyorin.co.jpまでお問い合わせください。

大学医学会雑誌情報交換会

第2回 開催レポート



り、統計査読の方法や学位論文の取り扱い、英文のネイティブチェックのタイミングなど、実際に論文を取り扱う先生方ならではの踏み込んだ意見交換がなされ、弊社にとっても先生方の生の声をお聞きする貴重な機会となり、大変勉強に



第7回を終えて

第7回 SIMワークショップを2015年10月27日～30日の4日間杏林舎にて開催しました。テーマは第2回と同じく「レポート機能」でした。特に関心の高いテーマのようで、今回も沢山の先生方にご参加頂き、中には第2回と両方に参加された方もいらっしゃいました。SIMのレポート機能には簡単な条件設定だけですぐ使える「Standard Report」と、自由度の高いオリジナルレポートの作成が可能な「Build Your Own Report」の2種類があり、皆さん熱心に両方の課題に取り組まれています。杏林舎ではSIMユーザーサポートの一環として年に複数回、ワークショップを開催しています。参加費はかかりませんので、これまで参加されたことのない方も是非一度ご参加ください。

編集後記

9月のバージョンアップで投稿画面のインターフェースデザインが大幅に変更されました。

事務局作業をされている学協会の皆様におかれましては、あまりご覧になる機会がないので気付かれなかもしれませんが、著者の代理操作や事務局画面で論文情報の編集をされた方からは「今までと見た目が全然違うのでビックリした!」といったお声を多数頂いております。

私たちサポートセンターでも、新しい画面で操作をしている際に、慣れた画面と勝手の違う箇所が一瞬戸惑うこともありますが、細かい点で使いやすさの配慮がなされていることにより、たびたび気付かれます。

まだ開発側で調整している箇所も一部あるかと思いますが、新しいインターフェースをよろしくお願ひいたします。

また、12月9日のSIMユーザーカンファレンスでも、トピックとしてご紹介させていただきます。皆様のご参加をお待ちしております。

SIM NEWS

2015年11月13日発行 第8号

発行 株式会社 杏林舎
〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10
TEL.03-3910-4311
FAX.03-3949-0230
URL http://www.kyorin.co.jp
編集・制作・デザイン 株式会社 杏林舎
E-mail s1mnl@kyorin.co.jp

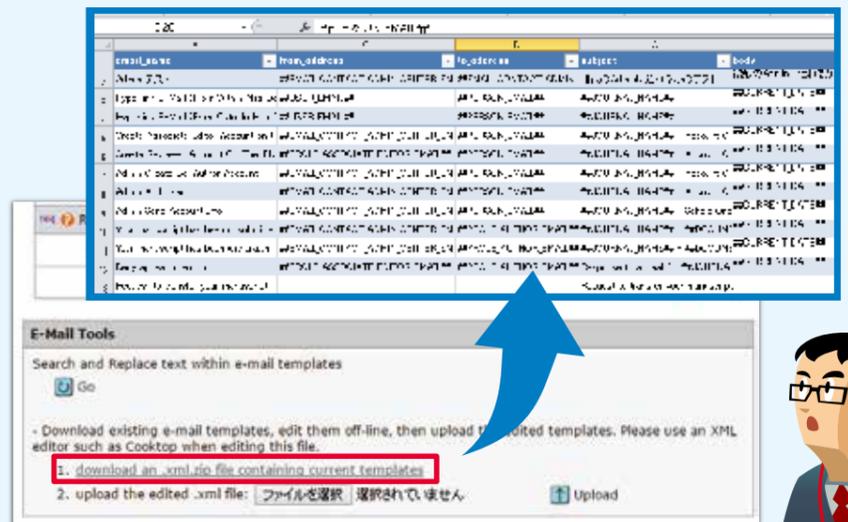
©株式会社 杏林舎 本誌掲載の記事・写真・イラストレーション等の無断転載を禁じます。

E-Mailテンプレートの一括表示

①E-Mail Templateの一番下にある「E-Mail Tools」の「download an .xml.zip file containing current templates」をクリックします。②ダウンロードされたZIPファイルを解凍し、中のXMLファイルを開きます。

XMLファイルはWordやWebブラウザなど様々なソフトで開けますが、Excelで表示した場合はテンプレートごとに行が分かれ、宛先や本文といった項目が列ごとにまとまって表示されるため、見やすくおすすめです。

注意：不具合が発生する可能性があるため「2. upload the edited .xml file」は使用しないでください。



こんにちは! 学術ソリューション課の山田です。今回は1つのジャーナルで使用している全てのE-Mailテンプレートの内容をまとめて確認する方法をご紹介します。テンプレート全体で用語統一を行いたい、問い合わせのあったテンプレートを素早く探したいといった場合に便利です!

